4－①　災害にあう前に必要なこと

■対象：地域住民　■人数：20 人　■時間：75 分程度　■手法：ピクチャーワーク＋ラベルワーク

学習のねらい　自分たちの暮らす地域の被害を予想することで、防災に向けての取組や、災害時の備え・心構えをもつことができる。

時間	学習の流れ	留　意　点	準　備　物
	【はじめに】 今日は、防災マップを使って地震や大雨といった災害時に想定できる被害について見ていきます。そして、普段からどのようなことに気をつける必要があるのか考えます。 その前に少し心と体をほぐしましょう。		
15分	【アイスブレイク】 ① 後出しじゃんけん ② せーのパン！ ③ 自己紹介 ・自身が体験した災害について	・③ではこれまで自分が体験したことのある災害について簡単に紹介し合う。 ・話しにくい場合や、思いつかない場合はしなくてもよい。	
45分	《 はじめにルールとマナーを確認しましょう 》 【中心のワーク】 ① 防災マップを見ながらそれぞれの自宅がどんなところにあるのか確認する　[10分] ※右ページ　Point A ② 地図に印をつける　[5分] ※右ページ　Point B ③ 災害時、避難時に注意が必要なこと・ものを付箋に書く　[10分] ※右ページ　Point C ④ グループで付箋を紹介し、模造紙上で分類し、島をつくる　[15分] ⑤ グループで話し合ったことを代表が発表する　[5分]	・防災マップ上で自宅周辺の様子（地形、災害指定箇所等）を見るよう伝える。 ・自宅や勤務先・子どもの学校など自分や家族に関わる箇所の周辺環境を知る。（避難コースの確認） ・官公庁・医療機関・災害救援に関わる機関や警察署・公民館・福祉施設等を確認する。 ・想定される災害や避難時に注意が必要なことに気づくように促す。 例）・通常使用している道路や避難所までの道路の状態の確認 ・避難所の安全性の確認 ・災害時にするべきこと ・持ち出す物の確認　等 ・想定できる被害だけでなく気づきも紹介する。	地域の防災マップ ドットシール（数種類） 筆記用具 付箋 サインペン 模造紙 色マーカー
15分	【ふり返りと分かち合い】 ① いつ起こるかわからない災害について、必要だと思われる“備え”について、グループ内でふり返る	・まずは、知ることが大切であることを伝える。	
	【おわりに】 いかがでしたか。いつ起こるかわからない災害に備えることは大切なことですよね。 今日は、災害時に想定できる被害について、改めて考えるきっかけになったことと思います。		

4－①「災害にあう前に必要なこと」参考資料

①準備するもの（1グループあたり）

□防災マップ

□筆記用具（水性マーカー・色鉛筆等）

□付箋

□模造紙

②作業の手順

Point A　自宅周辺の状況を確認する

土砂災害警戒地域・大雨時の浸水想定区域ではないか。避難所へ移動するための道路は安全かを確認する。

※グループ数の防災マップが準備できない時は、略地図に防災情報を描き写すワークを行ってもよい。

Point B　地図に印をつける（書き込み・シール　等）

自宅や学校・保育所・幼稚園・勤務先等、家族に関連する箇所を確認する。また、公民館や病院・公共施設などにシールをはる。避難所指定されている箇所を目立つように印をつける。危険箇所に色を塗る。

Point C　気づいたことを付箋に書きラベルワークの手法でまとめる

ラベルの例
- どんな行動をとるか
- そのために必要なものはなにか
- 日頃から気をつけたいこと
- 今日からできることはあるか